

【事例3】弱視通級指導学級

学校・学年	小学校・第4学年
障害の種類・程度や状態等	弱視 視力:(両眼とも)裸眼・0.08、矯正・0.1 最大視認力:0.6(4cm) 補助具:単眼鏡、近用レンズ

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい、など)

本人から	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びたい。 ・自分のことは自分でやりたい
保護者から	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人と関わり、優しい気持ちのある人に育ってほしい。

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・単眼鏡や近用レンズなどの視覚補助具の操作が得意である。
- ・タブレット端末や PC に興味をもっており、操作方法を身に付けたいという意欲がある。
- ・自分の見え方を友達にうまく説明することができず、戸惑う場面が増えてきている。

3 支援の目標

- ・中学校や高等学校、大学進学に向けて、視覚補助具や情報機器の活用方法を身に付ける。
- ・自分の見え方を説明する力を付けたり、適切な援助依頼の方法を身に付けたりする。

学校の指導・支援

- ・タブレット端末など情報機器の操作方法の指導を行う。
- ・「私が見え方カード」などを作成し、自分の見え方や必要な支援を理解し、適切に説明できるような指導を行う。
- ・まぶしさなどに配慮した座席配置や室内照明を行う。
- ・板書を行う際は、チョークの色や場所を配慮する。

家庭の支援

- ・公共交通機関等の利用機会を増やし、視覚補助具等を活用する機会を意識的に設ける。
- ・長期休業日や休日を活用し、様々な体験ができるような場や機会を設ける。

自立活動の「流れ図」

【弱視通級指導学級】

学校・学年	小学校・4年
障害の種類・程度や状態等	弱視 視力：0.08(0.1) 0.08 (0.1) 最大視認力：0.6(4cm) 補助具：単眼鏡、近用レンズ
事例の概要	視覚補助具を活用して、在籍学級で板書や提示された教材を見ることが出来る。算数や理科で使う道具の使い方を身に付けることやタブレット端末を活用する力をつけることを目標とする指導事例

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について 情報収集
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活動作は自立しており、運動や歩行能力には、問題ない。(身体の動き) ・慣れている場所では、単眼鏡の操作が得意で、ピント調整を短時間で行うことができる。(環境の把握) ・友達の前で視覚補助具を使うことを嫌がる場面が見られるようになった。(人間関係の形成) ・コンパスなど、初めて扱う道具に苦手意識があるが、自分の見え方について伝えられず、援助や支援を頼むことが難しい。(身体の動き、心理的な安定、コミュニケーション) ・タブレット端末に興味があり、学習場面で活用したいという意欲が高い。(環境の把握、心理的な安定) ・はさみやカッターなどの身近な道具の操作は身に付いている。 ・画数の多い漢字は書き間違いが多い。

- 1 収集した情報()を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす運動を好む。 ・自分の見え方については理解しているが他者への説明が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことに自信がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の前で視覚補助具を使うことに対して、抵抗を見せる場面がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での単眼鏡等の使用経験が少ない。 ・形状が類似している別のものと見間違えることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手指の巧緻性、目と手の協応に苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて自分の見え方を伝えることが難しい。

- 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級において、単眼鏡で板書や提示された教材を見ることが出来る。(環) ・理科や図画工作で使う道具は、個別に練習をすれば安全に扱うことができる。(身) ・体育館や講堂など広い環境での単眼鏡の使用に慣れていない。 ・タブレット端末などの操作に慣れていない。

- 3 収集した情報()を3年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関を利用した移動ができるようになる。 ・自分の見え方について理解し、他者に伝え、必要な支援が得られるようになる。

をもとに - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での視覚補助具を活用した情報収集の技術を身に付ける必要がある。(環) ・タブレット端末を活用し、視覚補助具として活用する経験が必要である。(環) ・初めて扱う道具や操作に対する不安を減らし、他者に援助を依頼する力を身に付ける必要がある。
(心)(人)(コ)

で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級など、慣れた場所では、単眼鏡や近用レンズなどの視覚補助具を活用することができている。今後は、特別教室や校外で活用できる力を高める。 ・在籍学級において、教室のやや後方の座席から、タブレット端末で板書を撮影し、それを視写する力を身に付ける。さらに、自分の見え方や必要な援助について整理し、他者へ伝えることができるように障害理解やコミュニケーションに関する指導も実施する。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室や校外等において、視覚補助具を活用する力を身に付ける。 ・在籍学級において、タブレット端末を活用する。 ・自分の見え方について、友達に説明できるようにする。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(2)状況の理解と変化への対応に関する事。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	(1)他者とのかわりの基礎に関する事。	(1)保有する感覚の活用に関する事。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事。 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事。

項目と項目を関連付ける際のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室や校外において、視覚補助具を活用する力を身に付けるために、心(3)環(1)(3)(4)を関連付けて設定した具体的な指導内容は ア及びイである。 ・在籍学級において、タブレット端末を活用するために、心(2)(3)環(1)(3)(4)(5)身(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容は ウである。 ・自分の見え方について、友達に説明できるようにするために、心(3)人(1)環(1)コ(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容は エである。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	具体的な指導内容を設定する段階			
	ア	イ	ウ	エ
	<ul style="list-style-type: none"> ・全校や学年単位での活動時に単眼鏡で対象物を捉え、ピントを合わせて正しく読み取る。 ・駅などで時刻表や運賃表を単眼鏡で正しく読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や移動教室において、駅の表示やバスの行先表示等を見る機会を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の読み取りや理科の観察や実験の記録に活用できるよう、カメラアプリを円滑に操作する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の見え方を説明し、困っているときに、周囲の人に説明し援助を求めることができるようにする。

個別指導計画

【弱視通級指導学級】

氏名		在籍	〇〇小学校 4年〇組（担任：〇〇 〇〇）
児童の障害の状態等	<ul style="list-style-type: none"> ・先天性白内障 視力:0.08(0.1)、0.08 (0.1) 最大視認力:0.6(4cm) ・日常生活動作は自立しており、運動や歩行能力にも、問題ない。 ・視覚補助具を活用して、在籍学級で板書や提示された教材を見ることができる。 ・慣れた場所では、単眼鏡の操作が得意で、ピント調整を短時間で行うことができる。 ・友達の前で視覚補助具を使うことを嫌がる場面が見られるようになった。 ・コンパスや分度器など、初めて扱う道具に苦手意識がある。 ・はさみやカッターなどの身近な道具の操作は身につけている。 ・画数の多い漢字は書き間違いや読み間違いが多い。 		
在籍学級での指導と配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を行う際は、チョークの色に配慮する。注目する場所などは、目立つ色のマグネットなどを使ってマークを作る。 ・まぶしさを配慮し座席位置は、廊下側の最前列若しくは2列目とする。 ・初めて行く場所、建物などは、丁寧にファミリーゼーションを行い、危険箇所等がわかるようにする。 		
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の利用頻度を多くし、交通機関の利用方法や戸外での単眼鏡等の視覚補助具の使用に慣れる。 ・眼科の主治医や視能訓練士と連携を図り、眼鏡や補助具の選定について意見交換を行う。 		
長期目標 (年間)	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使って、板書や提示された教材を見ることができるようになる。 ・自分の見え方について、説明できるようになる。 ・教室以外で、視覚補助具を活用できるようになる。 		

	指導目標	学習内容	評価
前期	<ul style="list-style-type: none"> 教室外での視覚補助具を活用できるようになる。 タブレット端末の操作に慣れる。 自分の見え方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単眼鏡の活用 カメラアプリの活用 見え方の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍校において全校や学年単位での活動の際に、単眼鏡を活用しパワーポイントなどで表示されたものを見ることができるようになった。 ・カメラアプリを起動し、ピントを合わせるまでスムーズにできるようになってきた。タブレット端末をどの方向に向ければよいか迷うことがあった。 ・どのような時に見えにくいのか、どうすれば見やすいかを文章にすることができた。
後期	<ul style="list-style-type: none"> 校外での視覚補助具を活用できるようになる。 在籍学級でタブレット端末を使用する。 自分の見え方を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単眼鏡の活用 カメラアプリの活用 見え方の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外で、駅の運賃表や時刻表示などを確認することができた。人が多い中で単眼鏡を素早く操作できるようにする必要がある。 ・ズーム機能やオートフォーカスについてスムーズに操作できるようになってきた。 ・「自分の見え方紹介カード」を作成し、弱視通級学級の友達に説明することができた。進級後、在籍学級の友達に説明できるように、在籍学級担任と説明時間の設定や内容について情報を共有する。